

史林第三十三卷總目録

口録

遼陽石室墓の漢代壁画

古代都市ウル

金銅製鍔帶金具

人面蛇身虺龍文盃

ランス大會堂

サルター圖

近江國依智庄檢田帳

饗餐文

祇園祭圖

北朝畫象石

論 文

フランス革命と基督教

近代精神の系譜

—朱子學の世界觀と其の歴史的位置—

京都市に於ける地下水の陸水學的研究

清代械闘の一考察

吉田敬市

北村敬直

清代山東省の官制陸上交通路

宋代解州官營鹽業の構造

—その支配と隸屬—

池田 誠

アメリカにおける東洋史學研究の一動向

—ウィットフォゲル「中國征服王朝理論」

その他

中國上代は封建制か都市國家か

—血族と稱呼との考察—

—中世における祖先の祭祀についで—

—特に田堵・名主について—

—川勝義雄

—中世に於けるギリシヤ語とラテン語の問題

—兼岩正夫

—我が律令時代の里と郷とについで

—曾我部 靜雄

—北陸門徒の關東移民

—ジョン・デッキンソンのえらんだ道

—今津 晃

—ヨーロッパ集落の生態

—水津一郎

—岩田慶治

—小林行雄

—小村實造

—宮崎市定

—中原與茂九郎

—岡田 芳三郎

—藤岡謙二郎

—横田健一

中世の世界圖に就いて

—織田武雄

—平安時代の農民

—宮川 滿

—シナ中世貴族政治の成立について

—川勝義雄

—殷代における祖先の祭祀についで

—岡田 芳三郎

—中世に於けるギリシヤ語とラテン語の問題

—兼岩正夫

—我が律令時代の里と郷とについで

—曾我部 靜雄

—北陸門徒の關東移民

—ジョン・デッキンソンのえらんだ道

—今津 晃

—ヨーロッパ集落の生態

—水津一郎

—岩田慶治

—小林行雄

—小村實造

—宮崎市定

—中原與茂九郎

—岡田 芳三郎

—藤岡謙二郎

—横田健一

學界展望

終戦後我國に於ける西洋史の動向
 一特に社會經濟史學を中心に

衣笠 茂
 越智 武臣
 廣實 源太郎
 一八九(八九)

終戦後我國における考古學の動向
 (一)概観 小林 行雄
 (二)先史考古學關係 坪井 清足
 (三)原史考古學關係 横山 浩一
 (四)歴史考古學關係 樋口 隆康
 終戦後我が國における人文地理學の動向
 三七三(三三八)

概観 織田 武雄
 學史・方法論 水津 一郎
 歴史地理 藤岡 謙二郎
 經濟地理 川喜田 二郎
 其他(1)人口 田邊 賢一郎
 (2)集落 木地 節郎
 (3)交通・貿易 君塚 進
 (4)疾病・氣候 石川 榮吉
 結 織田 武雄

總目録

日本中世史研究の一動向 井ヶ田 良治

東洋史學界の動向 佐藤 圭四郎

西洋史——自昭和二十五年一月
 至同年八月
 六七五(六七一)

古代 淺香 正
 中世 中村 賢二郎
 近代(前半) 田村 滿穂
 近代(後半) 秋山 博愛

資料紹介 松浦家文庫の海外交通史料について
 小葉田 淳

書評 支那史學史 内藤虎二郎著 貝塚茂樹
 人文地理學說史 飯塚浩二著 岩田慶治
 中世莊園の基礎構造 清水三男著 高尾一彦
 羅馬大土地所有制 村川堅太郎著 淺香正
 西歐市民意識の形成 増田四郎著 岡部健彦

一〇九(一〇六)
 Margit Bylin-Althin; The Site of Chi
 China Ping (齊家坪) and Lo Hong T'ang
 (羅洪堂) in Hansu (甘肅) [Stockholm,
 1946] 鈞田 正哉
 二八八(二八三)
 J. G. Andersson; The Site of Chu Chia
 Chai (朱家寨), Hai-Ning Hsien (西寧
 縣), Kansu (甘肅), [The Museum of
 the far Eastern Antiquities, Stockholm,
 Bulletin No. 17] 藤澤 長治
 二九〇(二八三)
 J. G. Andersson; Prehistoric Sites in
 Honan (河南) [The Museum of for
 Eastern Antiquities, Stockholm, Bulletin
 No. 19, 1947] 藤澤 長治
 二九三(二八六)
 日本古代史の 井上光貞著 直木孝次郎
 諸問題 二 九五(二三八)
 ムーゲ文明の研究 村田數之亮著 衣笠 茂
 二 九八(二四一)
 原始儒家思想と經學 重澤俊郎著 村上嘉實
 二 一〇〇(二四三)
 アメリカ國土論 室賀信夫著 河野通博
 二 一〇二(二四五)

近世農業經營史論……………戸谷敏之著・宮川滿

……………三 九三(三五八)

日本の農業—その經濟地理學的研究

……………三 九六(三六一)

アメリカ農業の……………細野重雄著・織田武雄

機械化……………三 九八(三六三)

ラテン……………田中耕太郎著・K・H

アメリカ史概説……………一〇〇(三六五)

原始時代の文化—太古の人類と文化

……………自然史學會編・横山浩一

中國革命史論……………橋 撲著・里井彦七郎

……………三 一〇四(三六九)

プロシヤ農業改革とエンカー經營の發展

……………林健太郎著・廣實源太郎

……………四 九二(四八一)

雍正帝……………宮崎市定著……………岩見 宏

……………四 九四(四八三)

藝術精神史研究……………中村二炳著……………石田一良

……………四 九七(四八六)

Die Frankfurter Altstadt, eine historisch-geographische Studie von Karl Nahr-gang [Rhein-Mainische forschungen 1949 Heft 27]

……………水津一郎

日本考古學入門……………原田淑人編……………樋口隆隆

……………四 一〇〇(四八九)

初期封建制の構成……………安田元久著……………黒田俊雄

……………四 一〇四(四九三)

西洋經濟史……………堀江英一著……………田村滿穂

……………五 六四(五七三)

都市近郊農業論……………宮田禎雄著……………藤岡謙二郎

……………五 六八(五七七)

イギリス資本と東洋……………松田智雄著……………北村敬直

……………六 九八(六九四)

北九州古文化圖鑑第一輯……………有光敦一

……………六 一〇〇(六九六)

續親鸞ノート……………服部之總著……………松山 宏

……………六 一〇一(六九七)

立憲王制……………Feliz Pontal……………合田裕作

……………六 一〇四(七〇〇)

編輯後記

多くの學術雜誌が經營の危機にある時、來年度よりの月刊豫定を次に控えて、今年の豫定通り最終號をこゝに送り得ることは、編輯關係者一同の大きな喜びである。そしてこのことはまた、内容的にも學界への寄與の乏し

くなかつたことの自信にも連がつている。

本號は卷頭論文の五來氏、次の今津氏の堅實な論考に、更に、水津、池田兩氏の若き新進學徒の力作をも加へたことは、古き傳統の上になお時代の新しい息吹を感らんとした編輯部の苦心であつた。何れも紙數の制限は著者の十分な意見の展開を著しく制約したが、評價は偏に讀者の賢察に俟ちたい。

更に本號には、新たに資料紹介欄を加へた。新史料を速く廣く一般に公開することは勿論、公刊されていらない種々の資料を學界の活用にも供することも現在の學術雜誌として不可欠の義務の一と考えるからである。

兎に角我々は努力して三十三卷の最終號に至つた。然し乍ら、我々の主觀とは別に會員及び一般の皆様には種々の不備と欠陥が指摘されるであろう。その點を遠慮なく指示して戴きたいし、可能な限り御希望に副いたい。

史林編輯部は、不安定という意味ではなく動つてゐる。自己批判は常に重ねて行きたい。この意味で、皆様の御支援と御協力を切望しつつ、本年最後の編輯を終える。最後乍ら、教育タイムス社の理解と援助に深い謝意を表する次第である。(門協記)